

3階ホーム名：グループホームグローブハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	《地域住民との交流》を理念に含ませており、毎月の新聞、玄関、スタッフの名札に掲げて意識し、取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	なじみの美容院を継続して利用している。近所の商店、外食店に出かけている。年間を通して、小学校との交流をもち、放課後にホームを開放したり、下校時の子どもパトロールをしている。地域のいきいきサロンに参加し顔馴染みになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校に出向き、認知症の事やグループホームについて、クイズ形式の交流を持ちながら児童に伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	個別外出の報告の際、入居者自身も思いを伝えている。外部の参加者からためになる情報を頂く事ができ、次の外出につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関、エレベーター、各階の出入り口の施錠はせず、センサーチャイムを設置して自由に開かれた住環境を作っている。車イスのシートベルトを限定した状況にのみ使用している。(2名)		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施。毎月のケアプラン評価で話題に出し、聞き取りを行い、虐待予防ケアを検討し実践している。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部の研修に参加したり、運営推進会議で情報交換している。入居の時点で、制度を使うかどうかを関係者と検討し必要に応じて対応している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書の全項目を説明し質問に答えている。理解しやすいよう別の書面をつけている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で、毎回、入居者代表、ご家族代表からの意見がある。個々のご家族の意見は毎月、聞き取りをしている。</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>管理者が行っている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が行っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者が行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者が行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談で思いを聴く事に重点を置き、安心できる関係を探って対応している。必要に応じて、数回面談する場合もある。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の内覧や面談でご家族の思いを聴き、ご本人とご家族が安心できる状況を作れるようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前の聞き取りや面談の様子でケアを見極めている。医療面、介護用品の対応も行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>台所仕事(料理、洗い物)や、個々の特技で、自身が中心となる役割を持てるようにしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居前の家族とのつながりが維持できるよう支援している。ご家族主催の音楽会や、教会行事の案内をいただき、ご家族と共に、ご本人の楽しみを作っている。</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>なじみの場所を開き取り、美容院、商店、教会、お墓、自宅に出かけたり、なじみの方と会える機会を作っている。会いたい方との来訪を依頼し、両者が安心して会えるように支援している。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事、レクレーション、家事などの場面に応じて気の合う方同士が交流をもちながら過ごせるように、場面づくりをしている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>長期入院で解約された方の面会や荷物整理など、ご家族とご本人への支援を行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴やその時の思い、今の思いを聞き取り、意向に沿った生活ができるようにしている。全員に対して毎月のモニタリングをその機会にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご本人、ご家族、関係者から聞き取りをして、書面に控え周知出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活状況を記録し、朝夕の申し送りで状態の変化を伝え、情報を共有している。基本的な心身情報は経過表に記載している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ケース担当者、ケアマネ、看護師で月の評価を実施。ご家族に報告し、気づいた点を話し合える場面を設け、毎月、ケアプランの更新を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過チェック表・プラン実施表・ケース記録・ヒヤリハット・気づき報告書・医療連携ノートをつけ、1ヶ月の振り返りに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との連携やご協力を得て個々の取り組みにつなげている。自宅への一時帰宅や、ご家族との外泊時、混乱を防ぎ安心して過ごせるようアルバムや覚え書きを用意するなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院、習慣の礼拝、墓参、近所の喫茶店や商店、地域のいきいきサロン、小学校との交流会で個々の楽しみとなる多様な場面を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点でホームの主治医(内科)の説明をし、納得された上でご入居されている。内科以外は、必要に応じて外来受診の支援を行っている。		

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>介護職と医療職がやり取りできる医療連携ノートを活用している。既往症、現疾病、日常のケアなどを記載。経過や変化を、都度記録した上で相談し、適切な医療ケアを受けられるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院に至った経緯、その他必要な最新情報を書面にまとめ持参し、病院担当者へ直接伝えている。入院中はお見舞いの際に、病院担当者と話す機会を作り退院に向けた相談をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の時点で説明し、ある程度の意向をきいている。入居後、ご本人の状態に応じて話し合いの中で意向を確認し、ホームでできる事を実践している。意向確認は書面に書き記している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職者は普通救命講習を受けている。急変時や事故時の対応を書式化して備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>人手不足となる夜間の設定で避難訓練を年2回実施している。地域の避難訓練に参加している。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のその人らしさを常に意識している関わりを持っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを話せるよう普段から傾聴と受容を実施し、非言語の表情や行動からも意向に気づけるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間が個々で異なるため、朝食時間に幅を持たせている。入浴、外出などの予定を一緒に決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を買いに出かけている。スカーフ、カチューシャ、腕時計など愛用品を自由につけ、スキンケア用品は個々の愛用品を使用できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理、盛り付け、箸並べ、台拭き、嚥下体操、食後の挨拶、洗い物、お盆拭きなど、入居者様個々の役割がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事摂取量を確保するため、味や形態の工夫、補食の提供をしている。飲み物も同様。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	普通の歯ブラシ、歯間ブラシ、舌ブラシ、義歯ブラシを個々に応じて使用している。それぞれの出来ない事を援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表の記録を検証し、出やすい時間にトイレ誘導をしている。センサーを使用しトイレに迷う方の案内や動作の援助など、個々の状況に合わせてケアしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きなこドリンク、ヨーグルト、オリゴ糖など腸の働きの助けのなる飲食を工夫している。体操や活動。トイレでのマッサージなどの一連のケアを取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回は入浴できるようにある程度の予定をたてている。入浴のタイミングはご本人と決めている。入浴用品、入浴の仕方は個々の好みに応じている。		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中の休息は自由。必要のない睡眠薬を希望する方には、疑似薬で対応。睡眠前間食の対応など、その人安心できるようにしている。夜間は遅くてもその日のうちに寝られるよう関わ</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>理解出来る様、医療連携ノートに処方箋をつけて見られるようにしている。新しく処方された薬は理由を記録して周知できるようにしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴からどんな人なのか、また、好きな事、得意な事を把握し、自分ならではの時間をもてるようにしている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>自宅に帰りたい、美容室に行きたい、礼拝に行きたい、月命日のお参りをしたい、遠く離れた姉妹に会いたい、季節の花を見たい、オヤツを買いたい、外食したい、デートしたい、と意向は様々。個別外出として予定を組み実践している。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>常時自分でお小遣いを持っている方は1名。(入浴中に所持金の確認をしている。)ほかには『財布内の現金は事務所で保管中』の札を所持している方もいる。外出時にお金を渡して自身で支払う機会を作っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からの贈り物のお礼や、近況を伝えたい時などに手紙を書いたりや電話をしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然な光が心地よく入るよう、防炎のれん、カーテン、すだれなどで配慮している。季節の花や、植物を飾っている。音は、センサーチャイムの音が耳触りになりすぎないよう音色を工夫している。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>窓辺の椅子や和室、キッチンカウンターを活用している。食事席や部屋の行き来などで気の合った者同士がすごしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋に置きたい物を確認し、入居してからも徐々に自分だけの部屋を作っている。個々によって部屋の様子は様々。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>エレベーターの操作ができる方は自由に使い他フロアーへ出かけている。エレベーターの乗降がわかるセンサーをつけている。どの出入り口も施錠せず、開け閉めが自分でできるようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない